

育児Q & A 「お友達のことを叩いたり、押ししたりしてしまいます。どうしたら良いのでしょうか？」

(2歳前後のお子さんの保護者からよくある相談です)

2歳くらいになると、自分が今何をしたいのか、どうしたいのか、という意思がはっきりとしてきます。

お子さんがご相談のような行動をした時、何か理由はありませんか？

例えば「友達が使っている玩具が使いたかった」「遊んでいる玩具をとられてしまった」「使っている玩具を取られるかと思った」「集中して遊んでいたところが邪魔された」「自分の遊んでいるスペースに急に入ってこられた」「目の前を横切られた(動線を邪魔された)」「順番を抜かされた」など、何か理由があることが殆どです。出来れば子どもが“叩く、押す”などの行動に移す前に止めてあげ、大人が子どもの気持ちを代弁してあげられると良いですね。

この年齢の子ども達は自分の気持ちにとっても素直です。そして簡単な言葉のやり取りは少しずつ出来るようになってきますが、自分の気持ちの伝え方は上手ではありません。叩いたり、押ししたりしてしまった時には、「〇〇したかったの？でも叩いたら痛いよ。」「あの玩具が使いたかったのよね。今はお友達が使っているから“貸して”ってママと一緒に聞いてみよう。」などと、子どもの気持ちを汲み取ったうえで、どうしたら良いのかを分かりやすい言葉で簡潔に教えてあげましょう。

感情が高ぶってしまった時には、お父さんやお母さんの言葉が耳に入らなくなってしまうことも時にはあるかと思えます。そのような時には、まずはお子さんの気持ちが落ち着くようにしてあげることがお勧めです。この時、強い口調で叱ったり無理に言うことをきかせようとするのは逆効果です。ますます混乱してどうしたら良いのか分からなくなってしまうこともありますので、クールダウン出来るように子どもの気持ちに寄り添って、穏やかな口調で声を掛けるようにすると良いでしょう。

喧嘩などのトラブルが起きた時には、お父さんやお母さんが仲介に入り、“叩いたり、押ししたりしなくてもこういう風に伝えれば、相手に自分の気持ちが伝わるのよ”という方法(言葉での伝え方)を、その都度、根気よく教えてあげてください。2歳前後という年齢では教えたからといってすぐに出来るようにはなりません、子どもは信頼できる身近な大人が示す、その方法を見たり、聞いたりしていくことで、次第に他者とのコミュニケーションに必要なことを学んでいきます。

参考文献:大豆生田啓友(2011)『よくある疑問を集めた これでスッキリ! 子育ての悩み解決 100 のメッセージ』すばる舎
岩立京子監修、NHK 編(2010)『NHK すくすく子育て育児ビギナーズブック① しつけ』NHK 出版

地域子育て支援拠点事業(ひろば型)

ほっと れもんてい

2014年 秋号 No. 42

(平成26年10月1日発行)

実りの秋がやってきました。子どもたちにとっては木の実拾いや落ち葉あそびなど、お散歩に出掛けるだけでわくわくすることがたくさん待っていますね。ほっとれもんていのお部屋もつるし飾りを秋らしく変えて、皆さんが遊びに来て下さるのをお待ちしております。秋のお散歩を楽しみながら、是非いらして下さい。



育児のヒント

皆様の育児の参考にさせていただけたらと、『育児のヒント』を記載しています。

今回は、関東学院大学人間環境学部人間発達学科教授 土谷 みち子先生です。

「子どもからのプレゼントを受けとっていますか」

はじめまして。私はこれまで、おもに子育て支援の広場において乳幼児の発達相談や、全国の保育現場の保育相談に関わってきました。自分の子育ては、数十年前で記憶が不確かですが、4歳と0歳の孫が誕生して、幼い子どもがいる生活の大変さを改めて実感しています。今日は、これまでの私の公私共々の体験から皆さんにお話させてください。

皆さんのご出産は幸せなものでしたか。私は娘の経験を見て、帝王切開で出産される方が増えていることに驚きました。予定されていた方も突然の変更を余儀なくされた方も、以前のようにゆっくりと休める間もなく、短期間入院で赤ちゃんの世話をする様子に驚きました。また誕生後、赤ちゃんは泣き続けていなかったでしょうか。保育士のテキストには、3ヶ月以前は1~3時間毎に授乳があること、3ヶ月過ぎるとよく寝て笑って、かわいくなるのが書かれています。すべては「平均」的な記述ですので、3ヶ月過ぎても寝ない、飲まない、笑わない赤ちゃんがいます。それは辛い子育てのスタートとなります。

親と子は幼いほど、お互いの気持ちが共鳴して、同じような感情を抱きます。「泣きたくなるのは、こっちのほうよ」と、感じたママも多いことでしょう。でも、赤ちゃんは泣きながら、胎児の口呼吸から人間の子どものための肺呼吸の練習をしています。そして、不快であることを、信頼おける大人に伝えようと、SOS 発信の練習をしています。そう、みんな泣き虫で、大変な生き物なので、ママやパパの子育てが下手なせいではないのです。

母乳でも人工乳でも、授乳中にしてほしいことがあります。それは、眼をみて、赤ちゃんの名前を呼びながら、人間社会で楽しいこと、嬉しいこと、またママの経験やパパのぼやきを話してほしいことです。ほ乳類のなかで、人間の赤ちゃんだけが、授乳中にお休みをします。それは、「何か話してよ～」と大人を誘っているといわれています。「人の間」で成長する生き物のために、乳児に与えられた、大人を誘って楽しむ力だそうです。そのやりとりから、人と言葉を話したくなって成長する力がパワーアップしていきます。

ほっと れもんてい

(あゆのこ保育園内)

〒243-0032

厚木市恩名1丁目10番38号

電話・FAX: 046-222-6055

あゆのこ保育園HP

<http://www.ayunoko.ed.jp/>

ほっと れもんていブログ

<http://lemontea-ayunoko.blogspot.jp/>



ほっと れもんていは、

地域子育て支援拠点事業(ひろば型)

として厚木市より委託されています。

開設日: 月~金曜日 (祝日を除く)

開設時間: 9:30~16:00

11:30~13:00 はお休みとなります。

利用の際の予約や登録は要りません。

開設場所: ほっと れもんてい (あゆのこ保育園内)

13:00~15:00: 園庭開放

14:00~16:00: 乳児用砂場開放 (4月~10月)

お子様と自由に遊んで頂けます。

お越しの際は、あゆのこ保育園の駐車場をご利用いただけ

ます。台数に限りがございますので、ご了承下さい。

1歳すぎて、他の子が話す、食べる、歩くができるようになっていくと、さまざまな発達の不安がでてくるかもしれません。高等動物なので単純ではなく、個人差は半年から1年間ほどあります。あわてないで！でも、一人でネット相談しないように。情報は多様に選択されるようにしてありますので、先輩の先生は、「ほ乳類だから、どこかは似ているように書いてある」と名言を話していました。一人で悩まないで、「今、ここにいる、うちの子」を、友人や専門家に見てもらいましょう。ただ、必ず、自分と似ているところ、違うところ、かわいいところを見つけてから、心配なところを話しましょうね。そうでないと、出口のない相談になってしまいます。誰でも、自分で育つ力があります。うちの子を信じて、あなたが信頼できる本物の子育ての支援者を探してくださいね。

子育ては、わが子の人生を一部背負っていきますので、大変難しい仕事です。これからも子どもたちは様々な困難や課題に出会っていくことでしょう。でもその時多くの子どもたちは、きちんとSOSを出します。つまり子どもは、わかりやすく、親にSOSを送っています。反対に言えば、自分だけで抱えているのではなく、周囲の大人を信頼して、「一緒に考えて」と社会性のあるSOSを出せる子どもに成長しているのです。私にしか見せない笑顔、抱っこしてのサイン、ママやパパの前でしかダダをこねない、食べない、寝ない等々、子どもからのたくさん「大好き！」のプレゼントを、大変な時もあるけれど受け取ってほしいと思います。親と子と、お互いの人生に力を合わせて、「何とかなる！」と未来を切り開いてほしいと願います。一人で無理しないように。どうぞお元気で！

土谷 みち子

健康ひとくちメモ「赤ちゃんとお話」

先日、お店で4~5ヶ月くらいの赤ちゃんを抱っこしたお父さんが、お洋服を選びながら赤ちゃんとお話していました。「どれがいいかなあ？」「アウ〜」「こっちの方がいいんじゃないか？」「ンマー」「こっちはちよっと高いから、こっちにしよう」「ンバー」「うーん。ママがいいっていいかなあ・・・？」「ンムッ」「わかった。わかった。」……。

まだ小さい赤ちゃんなのに、会話が成り立っているように思えました。このお父さんと赤ちゃんは会話にならない会話を楽しんでいたのです。お出かけした時、返事もできない赤ちゃんに話しかけることを恥ずかしいと思われるかもしれませんが、家ではついつい無言で過ごしてしまっている時もあるかもしれません。また、携帯やパソコンを常に操作していたり、“赤ちゃんは見えていないから”と大人が自分の見たいテレビを次々と見ていませんか？赤ちゃんは、お話はできないけれどよくわかっています。音をよく聞き、お母さん、お父さんのことをよくみているのです。

言葉を育てるのは、生活の中で自然に語りかけられることばの数々だと言われています。そして、ことばを子どもが理解して“わかる”には、からだを使ってたくさん遊び、脳を育て、お母さんやお父さん、お友達と遊ぶのは「楽しい」と思える心を育てること¹⁾が大切です。

赤ちゃんの頃から赤ちゃんの目を見て話しかけたり、何気ない言葉のキャッチボールをすることが言葉の発達につながります。「ごはんだよ」「お風呂に入ろうね」「オムツかえようね」など、一つ一つの動作に声を掛けたり、「これこうしようかな〜」、「あっ忘れてた！」など、ひとり言と思えるような“つぶやき”でも良いのです。一人言に赤ちゃんが「ンバツ」とお返事することもあるかもしれませんよ。是非、赤ちゃんとの生活を楽しんでください。そして、赤ちゃんから何かお話ししてくれた時には、「そうだね」「〇〇素敵だね」などとお返事をしてあげてくださいね。きっと、赤ちゃんもお話することがうれしくなるでしょう。

参考1) 中川信子監修(2006)『ことばの遅れのすべてがわかる本』講談社

食育メモ「食事を食べてくれない～小食が心配～」

食事を食べてくれないと心配になってしまいますね。お母さん、お父さんは「食べない＝嫌い、食事に興味が無い」と思っていますか？お子さんが“食べない”理由として、そのものが嫌いという場合もちろんあるとは思いますが、その他にもいくつか考えられます。

一つ目は、食事の時間が楽しくないことです。一人で食事を食べていたり(孤食)、「こぼさないで」、「早く食べなさい」など注意しすぎていたり、自分で食べないからと大人のペースで食事を口に運んで、食べることを無理強ひさせていませんか？お子さんが食事に対して何らかの不快感を持っていると、食事が楽しくないので、お子さん自ら食べようという気持ちが削がれてしまいます。また、食べてくれるメニューばかり提供していると、お子さんも飽きてしまいます。食事の時は「おいしいね！」、「もぐもぐね」など笑顔で楽しく声をかけながら、お母さん、お父さんと一緒に食べることが出来ると良いですね。

二つ目に、お腹が空いていないことです。少しでも食べてくれると安心するので、食事の時間以外でちょこちょこおやつを提供していませんか？好きな時間に好きなもの

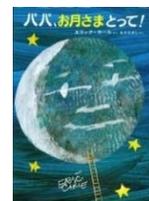
を食べることができると、それで満足してしまいます。また、お腹が空いていないと食べたいという欲求も出ません。食事の時間にお腹が空いたと感じられるように、食べ物大切さを伝えていくためにも、日中は十分に活動し、食事のリズムを整えていきましょう。

三つ目に、食事の形状やかたさがお子さんに合っていないことです。乳歯が生えそろうのは2歳6ヶ月前後ですので、奥歯が生えそろわないうちはかたいものを食べることが難しいでしょう。乳歯が生えそろうっていても、大きいもの、かたいものをすぐに食べられるようになるのではなく、経験を積み重ねて噛むことを習得していきます。噛む力が弱いうちは大人よりも柔らかい形状で、食べやすい大きさにして提供してあげましょう。

考えられる原因を改善してみても食べる量そのものが少ない場合は、きっとその量がお子さんの適量なのでしょう。身長・体重の増加を定期的に身体発育曲線に当てはめて確認し、問題がなければ、お子さんにとっては足りている量なのだと思います。お子さんそれぞれの食事量の中で栄養バランスを考えてあげましょう。

今月の絵本

～お勧め絵本のご紹介～



「パパ、お月さまとって！」

エリック・カール/ 作 もりひさし/ 訳
(偕成社 1986年 12月発行)

月や星がきれいにみえる季節ですね。

このお話は、主人公のモニカが、“お月さまと遊びたいな”と思ったことから始まります。すぐ近くにあるように見えるお月さま。でも、パパに抱き上げてもらい、手を伸ばしてみても、お月さまには届きません。そこでモニカは「パパ、お月さまとって！」と、お願いします。パパはモニカの望みを叶えるために、とてもなが〜いハシゴを持ってきました。パパはお月さまをとってくる事が出来るのでしょうか？

空にあることが当たり前の月ですが、もしもとってくる事が出来たら…そんな想像をするとちよっと楽しくなってきましたか？空に浮かぶ月が子どもには一体どんな風に見えるのでしょうか。大人が思いつかないような想像をして見上げていることもあるかもしれませんね。“もしもこんな事が出来たら…”と、想像することが楽しくなる、夢のあるおすすめ絵本です。

